

## コウエグ語の文法スケッチ\*

乾 秀行

(山口大学)

inui@yamaguchi-u.ac.jp

### 0 はじめに

本稿は、エチオピア連邦民主共和国の南部で話されている、ナイル・サハラ系の東部スーダン語群 (East Sudanic) の中のスルマ (surma) 諸語<sup>1</sup> に属する少数民族言語コウエグ (Kowegu) 語の文法の基本構造を明らかにすることを目的とする。

コウエグ語は、インフォーマントのシンデ氏によると、ニャンガトム (Nyangatom) 県の中心地から北に約 42 キロ離れた 4 つの村で話されている。コウエグの行政管理局のあるクチュル (Kuchuru) 村に約 400 人、それ以外にチャラカ (Chalaka) 村に 42 人、デーラ (Deera) 村に 48 人、そしてインフォーマントの出身村であるガルギダ (Galgida) 村に 56 人、都合あわせて約 550 人の話者がいるとされる<sup>2</sup>。インフォーマントが暮らすコウエグの村では日常的にコウエグ語が使用されており、系統も文法構造もかなり異なる近隣有力言語のニャンガトム語 (2007 年調査で 24,300 人) やカロ語 (2007 年調査で 1,480 人) に囲まれながら、現在も生き続けている少数民族言語である。若年層はコウエグ語以外にニャンガトム語や学校教育現場で用いられるアムハラ語がある程度話せるのに対して、高等教育を受けていない高齢者や女性はコウエグ語しか話せない単一言語話者で、言語的弱者である。なおインフォーマントのシンデ氏は、母語であるコウエグ語に加えて、日常的にニャンガトム語を話し、カロ語についてもある程

\*本稿のデータは、2011 年 2 月、2012 年 8 月および 12 月にエチオピア連邦民主共和国内のニャンガトム (Nyangatom) 県のコウエグ (Kowegu) 語地域のガルギダ (Galgida) 村出身のシンデ (Sinde) 氏 (調査当時 19 歳) をインフォーマントに現地調査したものである。インフォーマントのシンデ氏にはここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成 22~25 年度科学研究費基盤研究 (B) 「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究, ならびにデータベース構築」代表柘植洋一 (金沢大学) (課題番号 22401046) による研究成果の一部である。

<sup>1</sup>Bender (1976)、Lewis (2009) 参照。

<sup>2</sup>web 版 Ethnologue によれば、2007 年人口調査で 1,640 人となっている。また類型論的特徴が SVO で後置詞を持つと書かれているが、本調査結果とは異なる (ISO639-3:xwg)。

度理解する。もちろんエチオピアの作業語であるアムハラ語は日常的に使用しており、母語よりもむしろアムハラ語で話すことの方が多い。また学校教育の普及により英語による意思の疎通もある程度可能である。

## 1 先行研究

コウェグ語の先行研究としては、Hieda(1990, 1991, 1992, 1998)があり、詳細な語彙や簡単な文法が報告されている。その調査は、クチュル村の高齢者を対象に実施されている。一方、筆者がここ数年行っている調査によると、先行研究と幾分異なる言語特徴がいくつか観察されていて、乾(2011a, 2011b, 2013a, 2013b)では主に音韻および語彙（名詞と形容詞）についてその点を明らかにした。本稿ではコウェグ語の文法について論じてみたい。先行研究で言及されていなかったり、十分解明されていない文法現象や相違点を中心にトピック毎に取り上げることにする。

## 2 音韻

音素目録については、乾(2011b)で詳細に論じているので、ここではその結論のみを挙げておく。なおアクセントはピッチアクセントで、単語毎に一応許容されるアクセントが決まっているようであるけれども、あまり弁別的に機能していないと思われるので、今回は表記の煩雑さを避けるため、アクセント表記を省くことにした。

### 2.1 母音

5母音で長短の区別がある。また母音連続もよく起こり、/ie/, /ia/, /ei/, /ai/, /ae/, /au/, /ua/, /uo/, /ou/がある。母音目録は表1のようになる。

表 1: 母音目録

i	u	ii	uu
e	o	ee	oo
a		aa	

## 2.2 子音

破裂音には、近隣言語によくある無声音、有声音、放出音、入破音の4系列がある。他には口蓋垂の位置に摩擦音<sup>3</sup>があるのが特徴的である。子音目録は表2のようになる。

以下本稿ではこれらの音素表記を用いて表す。

表 2: 子音目録

無声閉鎖音	p	t	(ts)	tʃ	k	ʔ
有聲閉鎖音	b	d		ɕ	g	
放出音				tʃʰ	kʰ	
入破音	ɸ	ɸ				
無声摩擦音		s		ʃ	x	χ h
有聲摩擦音		z				ʁ
鼻音	m	n		ɲ	ŋ	
流音		r / l				
わたり音	w			j		

## 3 名詞・代名詞

### 3.1 人称標示

人称標示には、独立人称代名詞と動詞人称接辞の両方がある。独立人称代名詞の特徴としては、男女の区別が3人称単数だけでなく2人称単数にもある<sup>4</sup>。一方動詞人称接辞は接頭辞で表す。1人称と2人称のみ標示があり、3人称はゼロ標示である。人称接辞とは独立して数と性があり、それらは接尾辞で表す。なお人称標示は動作主を表す主格接辞のみの単項型である。動詞人称標示がある場合、独立人称代名詞は文の必須の要素でなくなり、省略が可能となる。動詞人称標示の詳細については、動詞活用の際に取り上げる。独立人称代名詞は表3のようになる。

<sup>3</sup>口蓋垂摩擦音の例は少ないが、ガルギダ方言では無声音は後述する動詞活用の複数完了相接尾辞拡張成分として多用されると共に、動詞 *χaamifen* 「欠伸する」では語頭の位置で *haamifen* 「(私が) 食べさせる」と最小対語を作っており、また有声音も *gae ɾae* 「いくら」や *ɸī/ ɸīɸī* 「肯定 / 否定の返事 (語頭に有聲口蓋垂摩擦音を伴う鼻母音)」に現れており、弁別されている。

<sup>4</sup>Hieda(1992)で3人称代名詞として挙げられている *iruŋ* は不定の3人称を表す。一方 *iji* は男女に関係なく、また定性にも関係ない、人間のみを表す名詞である。コウエグ語では3人称の独立人称代名詞が確立されていない可能性が高く、本稿で用いる形態も指示代名詞からの転用である。

表 3: 独立人称代名詞

	単数	複数
1	aan	uwou
2	m iin f iŋaŋ	ijo
3	m iŋ f iŋki	gitai / gitae

### 3.2 指示詞

指示詞は表4のような体系である。「これ」と「この」の形態上の違いはない。なお遠称複数は3人称複数代名詞の「彼ら」と同じ形態である。

表 4: 指示詞

	単数	複数
近称	xiŋ / -ŋ	giŋaŋ
遠称	iŋ ka ham / iŋkaam	gitae

近称単数：imiŋu **xiŋ** / imiŋuŋ 「このバッファロー」

近称複数：imiŋan **giŋaŋ** 「これらのバッファロー」

遠称単数：toʔo **iŋkaam** 「その家」

遠称複数：toʔan **gitae** 「それらの家」

(1) xiŋ a            niaŋ naani.

これ コピュラ 妻 私の

「これは私の妻です。」

(2) iŋkaam a            ur ka Kowegu.

それ コピュラ 人の コウエグ

「それはコウエグの人です。」

### 3.3 数

コウエグ語は単数・複数の区別を行う。単数から複数への規則的な派生法は、子音で終わる場合 {-an} を付け、語末母音がある場合には語末母音を/a/にして

{-n} を付ける。しかし数詞や数量詞が付いた時に複数標示が出ないことが多いので、数の文法化は義務的ではない。

ur	uran 「人」	toʔo	toʔan 「家」
tʃaatʃ	tʃaatʃan 「蛇」	ʃubo	ʃuban 「頭」
maddir	maddiran 「羊」	arte	artan 「魚」
toj	tojan 「ヤギ」	dabi	daban 「動物」
nak'ur	nak'uran 「サソリ」	kieni	kienan 「犬」
parda	pardan 「馬」	manki	mankan 「蚊」
daʔano	daʔanan 「ガンフォ」	ʃorgu	ʃorgan 「矢」

なお、以下の「少女」の例は Hieda(1992)によれば、ナイル・サハラ系言語の痕跡と解釈されている。調音位置が近いので /j/ > /w/ という不規則変化が生じたと考えられなくもないが、調べた範囲では /j/ で終わる他の語は規則的に変化している。また複数標示として、例外的に {-in} もある<sup>5</sup>。

inaj / inatan 「少女」  
mif / mijan 「食べ物」  
tigel / tigeljan 「月」  
kuwam / kuwamin 「膝」

長母音あるいは母音連続で終わる場合、接近音の /w/ あるいは /j/ がわたり音として挿入され、その際複数接辞の音節が反復されることもある。

bii / biiwan 「牛」  
gie / gijan 「傷」  
jedea / jedejan 「鏡」  
bua / buwan / buwawan 「手」  
guu / guuwan / guwawan 「火」  
mua / muwan / muwawan 「水」  
rua / ruwan / ruwawan 「身体」

この反復による複数は一部形容詞にも見られるが、この反復法は近隣言語のクシ系カロ語にもあり、両者の言語接触の結果と考えられる。

<sup>5</sup> ガルギダ方言話者により観察されたもので、形態素の再解釈の可能性が考えられる。

tatfi / **ta-tatf-an** 「大きい」  
 diini / **aif-aif-an** 「小さい<sup>6</sup>」  
 kabej / **kabe-kabej-an** 「中ぐらいた」  
 getfo / **getfo-getf-an** 「年老いた」  
 barfa / **ba-barf-an (barfa-barf-an)** 「若い」  
 kumbule / **kumbule-kumbul-an** 「小さい」

コウエグ語	カロ語	
ur ta-tatf-an	eedi gebigeŋi	「大きい人たち」
ur kumbule-kumbul-an	eedi ts'eedit's'eedi	「小さい人たち」
ur getfan / getfogetfan	eedi gaarigaari	「年取った人たち」
ur barfa / ur barfan / ur babarfan	eedi foolifooli	「若い人たち」

また前述の例外的複数標示 {-in} に関連して、動詞不定形に接中辞として {-in-} を挿入することで、複数の動作を表す名詞を作り出すことができる。

mat-en / mat-in-en 「みんなで飲むもの→酒」  
 niif-en / niif-in-en 「みんなで殺すこと→戦争」  
 kiiw-en / kiiw-in-en 「みんなで歌うこと→合唱」

#### 4 数詞

1~5 までと 10 はコウエグ語本来の語彙であるけれども、6~9 および 11 以上はクシ系カロ語からの借用語になっている。

1 kiem	6 lax	11 tabi kala	16 tabi lax	30 makkantam
2 dāxa	7 tsofa	12 tabi lama	17 tabi tsofa	40 ojtam
3 ŋien	8 loŋkai	13 tabi makkam	18 tabi loŋkai	50 doŋtam
4 ahur	9 sell	14 tabi ojdi	19 tabi sell	60 latam
5 ŋon	10 tomun	15 tabi doŋ	20 lamatam	70 ts'obatam
				80 loŋkaitam
				90 selltam
				100 diŋ

<sup>6</sup>単数・複数が異語根で表れる例。数に関わる動詞の異語根の例としては、例えば「来る」(「kuuj (単) / paj (複) ) がある。(5.1. 参照)

## 5 動詞

### 5.1 動詞語幹と不定形

動詞語幹に {-en} を付けることで規則的に不定形を作り出すことができる (表 5)。なお動詞の一部には、単数と複数で全く異なる語幹を持つもの (下例では「行く」と「来る」) がある。

表 5: 動詞語幹と不定形

動詞語幹	不定形	
mat	mat-en	「飲む」
aam	aam-en	「食べる」
ge	ge-en	「見る」
kuuj (単) / paj (複)	kuuj-en / paj-en	「行く」
kuun (単) / pain (複)	kuun-en / pain-en	「来る」

(3) aan (h)aʔ-of-i-ba      oifu      mat-en.

私 1-欲する-単-未完了 コーヒー 飲む-不定

「私はコーヒーが飲みたい。」

(4) iin      jeʔ-of-i-ba      oifu      mat-en.

おまえ (男) 2-欲する-単-未完了 コーヒー 飲む-不定

「おまえ (男) はコーヒーが飲みたい。」

### 5.2 未完了相

動詞語幹に人称を表す接頭辞 (1 人称 {(h)a-} と 2 人称 {je-} (但し、1・2 人称とも動詞語幹が母音で始まる場合には /ʔ/ が挿入される) と数 (単数 {-i}<sup>7</sup> と複数 {-a})、未完了 {-ba}、女性形 {-e} を表す接尾辞がつく (表 6)。語幹に接辞が付く順番は以下のとおりである。

#### 主格—語幹—数—未完了—女性

(5) (h)a-kuuj-i-ba      aan tamari daamu.

1-行く-単-未完了 私 学校 明日

「(私は) 明日学校に行く。」

<sup>7</sup>音環境により落ちることもある。

表 6: 動詞活用 (未完了)

1sg	aan	(h)aʔ-aam-ba	anɕera.
2sg.m	iin	jeʔ-aam-ba	anɕera.
2sg.f	iŋaŋ	jeʔ-aam-ba-e	anɕera.
3sg.m	ij	aam-ba	anɕera.
3sg.f	iŋki	aam-ba-e	anɕera.
1pl	uwou	(h)aʔ-aam-a-ba	anɕera.
2pl	ijo	jeʔ-aam-a-ba	anɕera.
3pl	gitae	aam-a-ba	anɕera.

(6) je-mat-i-ba      iin              fai.  
 2-飲む-単-未完了 おまえ (男) 茶  
 「(おまえ (男) は) 茶を飲む。」

(7) je-kuuj-i-ba-e      iŋaŋ              Jinka.  
 2-行く-未完了-単-女 おまえ (女) ジンカ  
 「おまえ (女) はジンカに行く。」

(8) uŋ-i-ba              ij paapu      doojok.  
 寝る-単-未完了 彼 ベッド 上  
 「彼はベッドの上で寝る。」

### 5.3 完了相

単数が {-(j)aʔa}、複数は拡張成分が追加され {-(j)ajaɕ} の接尾辞がつく<sup>8</sup>。女性の場合は、語末母音を /a/ から /e/ に変える (表 7)。動詞語幹に接辞が付く順番は以下のとおりである。

#### 主格—語幹—数—完了—女性

(9) aan a-k'ox-i-jaʔa      dowada.  
 私 1-釣る-単-完了 ドワダ  
 「私はドワダを釣った。」

(10) uwou      giagog a-k'aw-a-jajaɕ      itre.  
 私たち 昨日 1-嚙る-複-完了 蜂蜜  
 「私たちは昨日蜂蜜を嚙った。」

<sup>8</sup>複数接辞の拡張成分はガルギダ方言の特徴と思われる。



表 7: 動詞活用 (完了) 「食べる」

1sg	aan	(h)aʔ-aam-i-jaʔa	anɕera.
2sg.m	iin	jeʔ-aam-i-jaʔa	anɕera.
2sg.f	injaŋ	jeʔ-aami-ja-e	anɕera.
3sg.m	inj	aam-i-jaʔa	anɕera.
3sg.f	injki	aam-i-ja-e	anɕera.
1pl	uwou	(h)aʔ-aam-a-jajaɣ	anɕera.
2pl	ijo	jeʔ-aam-a-jajaɣ	anɕera.
3pl	gitae	aam-a-jajaɣ	anɕera.

なお、複数形に関しては、異形態 {-eteja} も存在する。以下の2つの文は同じ意味であるが、(12)では複数標示がなくなると共に、拡張成分 {-ɣ} も付かない。

(11) uwou a-daaf-a-jajax Sindi.

私たち 1-叩く-複-完了 スインデ  
「私たちはスインデを叩いた。」

(12) uwou a-daaf-eteja Sindi.

私たち 1-叩く-完了 スインデ  
「私たちはスインデを叩いた。」

#### 5.4 短縮形

数接辞を除くすべての接尾辞が省略されることがあり<sup>9</sup>、人称を表す接頭辞 (1人称 {a(ʔ)-} と2人称 {je(ʔ)-}) と数接尾辞のみとなる。語形融合が進んだ結果、未完了と完了の区別がなくなり、テンス・アスペクトに関して特に言及しない表現に用いられる。表8のようになり、( ) 内が省略され、未完了相 (例「食べる」)、完了相 (例「座る」) と同形となる。

#### 5.5 進行相・状態相

進行相あるいは状態相は、存在動詞 (単数は {aanen}、複数は {aanaa}) + 動詞不定形で作られる。

(13) gaan aan aʔ-aan-en oifu mat-en.

今 私 1-存在-単 コーヒー 飲む-不定  
「今私はコーヒーを飲んでいる。」

<sup>9</sup>Hieda(1992) では unmarked tense と呼んでいる。

表 8: 短縮形: 「食べる (未完了)」 / 「座る (完了)」

1sg	aan	aʔ- <b>aam-i</b> (-ba)	/ aʔ- <b>up-i</b> (-jaʔa)
2sg.m	iin	jeʔ- <b>aam-i</b> (-ba)	/ jeʔ- <b>up-i</b> (-jaʔa)
2sg.f	injaŋ	jeʔ- <b>aam-i</b> (-ba-e)	/ jeʔ- <b>up-i</b> (-ja-e)
3sg.m	inj	<b>aam-i</b> (-ba)	/ <b>up-i</b> (-jaʔa)
3sg.f	injki	<b>aam-i</b> (-ba-e)	/ <b>up-i</b> (-ja-e)
1pl	uwou	(h)aʔ- <b>aam-a</b> (-ba)	/ a- <b>kob-a</b> (-jajax)
2pl	ijo	jeʔ- <b>aam-a</b> (-ba)	/ je- <b>kob-a</b> (-jajax)
3pl	gitae	<b>aam-a</b> (-ba)	/ <b>kob-a</b> (-jajax)

- (14) gaan Henok **aan-en** kanke birij-**en**.  
 今 ヘノキ 存在-単 車 運転する-不定  
 「今ヘノキは車を運転している。」
- (15) gaan uwou aʔ-**aan-aa** tog ka Kowegu kom-**en**.  
 今 私たち 1-存在-複 ことばの コウエグ 考える-不定  
 「今私たちはコエグ語を考えている。」
- (16) gaan aan aʔ-**aan-en** tʃamuko aam-**en**.  
 今 私 1-存在-単 ワット 食べる-不定  
 「今私はワットを食べている。」
- (17) gaan aan aʔ-**aan-en** rij-**en** ham ka toʔo Fiqre.  
 今 私 1-存在-単 走る-不定 までの家 フィクレ  
 「今私は今フィクレの家まで走っている。」
- (18) gaan jeʔ-**aan-en** afiki-**en** oʔ  
 今 2-存在-単 する-不定 何  
 「おまえは今何している？」
- (19) aʔ-**aan-en** dabdabbe tok-**en**.  
 1-存在-単 手紙 書く-不定  
 「(私は) 手紙を書いている。」

## 5.6 態

受動態、再帰態、相互態、自発態があり、いずれも同じ派生接尾辞 {-en-} により作られる。一方使役態は派生接尾辞 {-iji-} (異形態として {-ije-}) により作られる。

### 5.6.1 受動態

動作主は前置詞 *oha* で降格される。この場合、語順は VSO よりも SVO が好まれる (基本語順に関しては 6.1. 参照。 )。

(20) *kieni ind-aʔa biwa.*

犬 咬む-完了 猫

「犬が猫を咬んだ。(能動)」

(21) *biwa ind-en-aʔa oha kieni.*

猫 咬む-受動-完了 よって 犬

「猫は犬に咬まれた。(受動)」

(22) *moho niif-aʔa ur.*

ライオン 殺す-完了 人

「ライオンが人を殺した。(能動)」

(23) *ur niif-en-aʔa oha moho.*

人 殺す-受動-完了 よって ライオン

「人がライオンに殺された。(受動)」

(24) *jubun ka Sindi koti-aʔa Sindi.*

父 の スィンデ 叱る-完了 スィンデ

「スィンデの父はスィンデを叱った。(能動)」

(25) *Sindi koti-en-aʔa oha jubun ka Sindi.*

スィンデ 叱る-受動-完了 よって 父 の スィンデ

「スィンデはスィンデの父に叱られた。(受動)」

(26) *gorgu agr -aʔa antiti oha Sindi.*

泥棒 取る-完了 金 から スィンデ

「泥棒がスィンデからお金を取った。(能動)」

(27) *Sindi oha gorgu antiti pagr-en-aʔa.*

スィンデ よって 泥棒 金 取る-受動-完了

「スィンデは泥棒にお金を取られた。(受動)」

### 5.6.2 再帰態

(28) の名詞 ruwa 「身体」の代わりに、接辞 {-en} を用いて再帰態で同じ意味を表すことができる。

(28) ij rokin-i-jaʔa ruwa.

彼 洗う-単-完了 身体

「彼は身体を洗った。」

(29) aan aʔ-rokin-en-i-jaʔa.

私 1-洗う-再帰-単-完了

「私は身体を洗った。(再帰)」

(30) aan aʔ-rokin-en-a-jajax.

私たち 1-洗う-再帰-複-完了

「私たちは身体を洗った。(再帰)」

### 5.6.3 自発態

動詞 ibaḍ-en 「知っている」に接辞 {-en-} を付加することで自発態を作ることが可能である。

(31) aan aʔibaḍ-i-jaʔa borok ka Kowegu.

私 知る-単-完了 村 の コウエグ

「私はコウエグの村を知っている。」

(32) aan aʔibaḍ-en-i-jaʔa ae waada xa got.

私 知る-単-自発-完了 接 訪れ の 雨

「私は雨季の訪れが感じられた。(自発)」

### 5.6.4 相互態

相互態も接辞 {-en-} を入れることで作られる。

(33) uwou a-niif-en-a-jajax.

私たち 1-殺す-相互-複-完了

「私たちは殺し合った。(相互)」

### 5.6.5 使役態

使役態は {-iji-} あるいは数標示と融合して {-ije-} を入れることで作られる。後者は数接辞と融合した形と思われるが更なる調査が必要である。

(34) aan aʔ-afiki-i-jaʔa.

私 1-働く-単-完了

「私は働いた。」

- (35) aan Sindi aʔ-afik-**ifi**-i-jaʔa.  
私 スインデ 1-働く-単-使役-完了  
「私はスインデを働かせた。(使役)」
- (36) Seko aam-i-jaʔa tʃamuku.  
セコ 食べる-単-完了 シチュー  
「セコはシチューを食べた。」
- (37) Sindi aam-**ife**-jaʔa Seko tʃamuku.  
スインデ 食べる-使役-完了 セコ シチュー  
スインデはセコにシチューを食べさせた。」
- (38) aan aʔaam-**ifi**-i-jaʔa Seko tʃamuku.  
私 1-食べる-使役-単-完了 セコ シチュー  
「私はセコにシチューを食べさせた。」

### 5.7 自他交替

態と関連して、他動詞から自動詞を作る場合には、受身接尾辞と同じ {-en-} を用い、一方自動詞を他動詞にする場合には、使役接尾辞 {-ifi-} を用いる (表 9)。

表 9: 自他交替の接辞

	{-en-}	{-ife-}
自動詞化	pak'- <b>en</b> 「落ちる」	pak'- 「落とす」
他動詞化	arf- 「割れる」	arf- <b>ifi</b> 「割る」

- (39) k'oʃe naani pak'-**en**-e, arʃ-aʔa.  
ミルク入れ 私の 落ちる-自-接続 割れる-完了  
「私のミルク入れが落ちて、割れた。」
- (40) Sindi k'oʃe pak'-e, arʃ-**ifi**-i-jaʔa.  
スインデ ミルク入れ 落とす-接続 割る-他-単-完了  
「スインデはミルク入れを落として、割った。」

態と自他交替の関係は連続していて、たとえば以下の box-en 「開ける」の自動詞「開く」を作る際に用いられる {-en-} は、受動の意味でも用いられ、また意味役割が動作主 (人)、原因 (風)、道具 (鍵) などに関係なく、すべて同じ {-en-} を付けることで作り出される。

- (41) Sindi box-ajaʔa apuk.  
スィンデ 開ける-完了 ドア  
「スィンデはドアを開けた。(他動)」
- (42) apuk box-en-ajaʔa.  
ドア 開ける-自・受-完了  
「ドアが開いた／開けられた。(自動あるいは受動)」
- (43) apuk box-en-ajaʔa oha Sindi.  
ドア 開ける-受-完了 よって スィンデ  
「スィンデによってドアが開けられた。(受動：人)」
- (44) apuk box-en-ajaʔa nandaha pugu.  
ドア 開ける-受・自-完了 よって 風  
「風でドアが開いた。(受動・自動：自然)」
- (45) apuk box-en-ajaʔa ke k'ulf.  
ドア 開ける-受・自-完了 で 鍵  
「鍵でドアが開いた。(受動・自動：道具)」

## 5.8 分詞

分詞の形態法は、一部音環境により異形態（たとえば下の例では「眠る」）が出ることもあるけれども、基本的に完了分詞が「語幹-i」、未完了分詞が「語幹-iba」によって規則的に作られる。また分詞の位置は、修飾する名詞の前に来るのが基本で、後述 6.1.3. の基本語順 NA 型に反する。

### 完了分詞

- k'udm-i ɕap 「曲げた足」  
t'upij-i buwa 「握った手」  
wuf-i aruŋ 「焼いた肉」  
uwaruŋ-i boolo 「買ったランプ」  
adinsij-i huu 「狩ったイボイノシシ」  
tʃ'uub-i apala 「洗った服」  
k'ox-i arte 「釣った魚」  
burkij-i moogu 「茹でた卵」  
bul-i tʃaahu 「脱いだ靴」  
niiʃ-i ur 「殺された人」

## 未完了分詞

tʃ'oj-**iba** ur 「酔っている人」

rif-**iba** hanta 「走っている子ども」

uŋ-**ba** huwa 「眠っている赤ん坊」

前置詞句を伴う場合は、分詞が後ろから名詞を修飾することもある。(46)はその例である。(47)と比較されたい。

(46) xij a aruŋ wuf-i oha Sindi.  
これ コピュラ 肉 焼く-完了分詞 よって スインデ  
「これはスインデによって焼かれた肉である。」

(47) xij a uŋ-ba huwa ka Sindi.  
これ コピュラ 眠る-未完了分詞 赤ん坊 の スインデ  
「これはスインデの眠っている赤ん坊である。」

## 6 文

### 6.1 基本語順と名詞の格標示

主格と対格を形態上区別する格標示はなく、名詞の格標示に関しては中立型である。VSO あるいは SVO の基本語順に従って、つまり S が O に先行する順で文は理解される。しかし既に言及したように 1 人称 2 人称には動詞人称の接頭辞があることで主語（あるいは動作主）が分かるので、独立人称代名詞が省略されることも多く、統語的に語順が重要な役割を果たすわけではない。人称接辞が動詞の接頭辞として現れるので、会話では人称代名詞の S が背景化されて、VOS になることも自然である。つまり語順は情報構造のために利用されているものと考えられる。

#### 6.1.1 節語順

(48) kieni ind-aʔa biwa.  
犬 咬む-完了 猫  
「犬が猫を咬んだ。」

#### 6.1.2 属格表現

属格表現は NG 型で、前置詞 ka（あるいは軟口蓋破裂音が摩擦音化した xa）で 2 つの名詞を繋ぐ。

(49) tog **ka** kubar  
口 の 鳥  
「くちばし」

(50) folok'on **ka** moogu

殻 の 卵

「卵の殻」

(51) manki **ka** riigine

蚊 の マラリア

「マラリアの蚊」

(52) got **ka** bai

雨 の 石

「雹」

### 6.1.3 形容詞と名詞

分詞とは異なり、形容詞と名詞の順はNAとなる。

(53) pugu diini

風 小さい

「そよかぜ」

(54) aruŋ k'ula

肉 生の

「生肉」

### 6.1.4 接置詞

VSOあるいはSVO語順の言語では、前置詞との整合性が高い。しかしコウエグ語には前置詞を基本とするものの、名詞の働きを併せ持つ後置詞もいくつか存在する。

まず文法関係を表す与格から見ていく。3価動詞「与える」を例にすると、目的語の順番を入れ替えた場合、(56)のように与格名詞句は前置詞 *nandaha* を用いて表される。なお(55)(56)とも文末の位置が焦点化されている。

(55) Sindi aaja?a Seko mobajl.

スィンデ 与える-完了 セコ モバイル

「スィンデはセコにモバイルを与えた (カメラではなく)。」

(56) Sindi aaja?a mobajl **nandaha** Seko.

スィンデ 与える-完了 モバイルに セコ

「スィンデはセコにモバイルを与えた (フィクレではなく)。」



### 6.1.5 前置詞

前置詞には、ke 「から、と」、oha 「より、よって」、ka 「の」、kee 「のように」、taaha 「方に」がある。

- (57) kuu-jaʔa Sindi **ke** Kowegu Jinka.  
来る-完了 スィンデから コウエグ ジンカ  
「スィンデはコウエグからジンカに来た。」
- (58) giagon **ke** Seko aʔ-afau-i-jaʔa.  
昨日 と セコ 1sg-話す-単-完了  
「(私は) 昨日セコと話した。」
- (59) toŋ **oha** kieni a kabej.  
ヤギより 犬 コピュラ 大きい  
「ヤギは犬より大きい。」
- (60) biwa ind-en-aʔa **oha** kieni.  
猫 咬む-受-完了 よって 犬  
「猫は犬に咬まれた。」
- (61) Henok a duts'uli **kee** turuk.  
ヘノキ コピュラ 巨大 ように カバ  
「ヘノキ (人名) はカバのように巨大だ。」
- (62) **taaha** dara buure ɕuwanu aneba.  
方に 川 ブーレ たくさんのある  
「川の方にはたくさんのブーレ (ハエの一種) がいる。」
- (63) Karti aanen **taaha** juuf tuloŋ.  
カロ いる 方に 東  
「カロは東の方にいる。」
- (64) Toposa aanen **taaha** juuf dek'oŋ.  
トポサ いる 方に 西  
「トポサは西の方にいる。」
- (65) Daaseneŋ aanen **taaha** togu.  
ダセネッチ いる 方 南  
「ダセネッチは南の方にいる。」

(66) Murf aanen **taaha** gaag.

ムルシ いる 方に 北

「ムルシは北の方にいる。」

### 6.1.6 後置詞

後置詞には、tuonj 「中に」、doojok 「上に」、duubu 「下に」、juunuk 「外に」、lemen 「前に」、kutkut 「後ろに」があり、最後の3つは前置詞 ke と一緒に両置詞のように使われる。

(67) Itiopia **tuonj** ur injk'aijk'a aneba.

エチオピアに 人いろいろないる

「エチオピアにはいろいろな人がいる。」

(68) aan a-kuuj-i-ja?a to?o **tuonj**.

私 1-行く-単-完了 家 に

「私は家の中へ行つた。」

(69) alga **doojok** apala aneba.

ベッド 上に 服 ある

「ベッドの上に服がある。」

(70) aan (h)a'aanen paapu **doojok**.

私 いる ベッド 上に

「私は(屋根の)ベッドの上にいる。」

(71) alga **duubu** tfaahu aneba.

ベッド 下に 靴 ある

「ベッドの下に靴がある。」

(72) **ke** to?o **juunuk** kanke aneba.

から 家 外に 車 ある

「家の外に車がある。」

(73) **ke** to?o **lemen** bifikila aneba.

から 家 前に バイク ある

「スインデの前にバイクがある。」

(74) **ke** to?o **kutkut** saikil aneba.

から 家 後ろに 自転車 ある

「家の後ろに自転車がある。」

### 6.1.7 後置詞の名詞化

後置詞は前置詞 ka の被修飾名詞や前置詞の目的語になっている場合もあり、以下の例では名詞として機能している。

(75) aan (h)a'aanen **duubu** ka jaari.

私 いる 下 の 木

「私は木の下にいる。」

(76) **lemen** ka Sindi da?ano aneba.

前 の スィンデ ガンフォ ある

「スィンデの前にガンフォ（粥の一種）がある。」

(77) **kutkut** ka Sindi karam aneba.

後ろ の スィンデ 椅子 ある

「スィンデの後ろに椅子がある。」

(78) to?o taaha **kutkut** saikil aneba.

家 方に 後ろ 自転車 ある

「家の後ろの方に自転車がある。」

(79) taaha **k'otj'or** ka to?o saikil naani aneba.

方に 傍ら の 家 自転車 私の ある

「家の傍（の方に）私の自転車がある。」

## 6.2 語順のまとめ

以上、言語類型論でよく取り上げられる4つの語順特徴をまとめると表10ようになる。

表 10: 語順の4大特徴

節語順	接置詞	所有者	形容詞
VSO/SVO	PR/po	NG	NA

## 6.3 命令文

命令形の作り方は、語幹あるいは人称標示のない未完了形にする。一方、命令の否定形の作り方は不定詞に接頭辞 {oi-} を付けるか、または2人称標示と共に否定接尾辞 {-ken} を付ける。

- (80) **mat** oifu!  
 飲む (語幹) コーヒー  
 「コーヒーを飲め。」
- (81) **aam** da?ano!  
 食べる (語幹) ガンフォ  
 「ガンフォを食べろ。」
- (82) **mat-i-ba** oifu!  
 飲む-単-未完了 コーヒー  
 「コーヒーを飲め。」
- (83) **aam-a-ba** da?ano!  
 食べる-複-未完了 ガンフォ  
 「ガンフォを食べよう。」
- (84) **oi-mat-en** bira!  
 否定-飲む-不定 ビール  
 「ビールを飲むな。」
- (85) **je-mat-i-ken** bira!  
 2-飲む-単-否定 ビール  
 「ビールを飲むな。」
- (86) Fiqr-ijo, **oi-aam-en** t'ibis, a ts'oom.  
 フィクレ-呼 否定-食べる-不定 ティブス コピュラ ツォム  
 「フィクレ、ティブスを食べるな！ツォムだ。」
- (87) Sind-ijo, **je?-aam-i-ken** itre!  
 スィンデ-呼格 2-食べる-単-否定 蜂蜜  
 「スィンデ、蜂蜜を食べるな。」

#### 6.4 否定文

否定文は、{-mar-} と不定形で作られる。( ) は省略可能である。またそれ以外では {-ken} を接尾辞に付ける方法がある。

- (88) **a?-rok-i-ken** aan dara.  
 1-泳ぐ-否定 私 川  
 「私は川を泳がない。」

表 11: 否定文「酒を飲まない。」

aan	a-mar-i(-ba)	tʃ'al	maten.
iin	je-mar-i(-ba)	tʃ'al	maten.
ijaj	je-mar-i(-ba-e)	tʃ'al	maten.
ij	mar-i(-ba)	tʃ'al	maten.
ijki	mari-(ba-e)	tʃ'al	maten.
uwou	a-mar-a(-ba)	tʃ'al	maten.
ijo	je-mar-a(-ba)	tʃ'al	maten.
gitai	mar-a(-ba)	tʃ'al	maten.

## 6.5 疑問文

疑問文は動詞の語末に {-i} を付けることで作られる。位置は文末である必要はない。

- (89) Sindi, jeʔ-aam-ba-i kurs?  
 スィンデ 2-食べる-未完了-疑問 朝食  
 「スィンデ、朝食を食べるか？」

- (90) a'-aam-i-ken.  
 1-食べる-単-否定  
 「食べない。」

- (91) Sindi, jeʔ-uwam-ba-i?  
 スィンデ 2-洗う-未完了-疑問  
 「スィンデ、顔を洗うか？」

- (92) aʔ-uan-i-jaʔa.  
 1-洗う-単-否定  
 「(もう) 顔を洗った。」

## 6.6 関係節

先行研究 (Hieda 1992:140) で言及されているように、関係節は近称の指示詞 xij を関係詞として用いることで作ることが可能である。

- (93) arte xij a-ge-i-jaʔa a tatʃi.  
 魚 関係詞 1-見る-単-完了 コピュラ 大きい  
 「私が見た魚は大きかった。」

- (94) aruŋ **xij** aam-i-jaʔa a gara.  
肉 関係節 食べる-単-完了 コピュラ 悪い  
「彼が食べた肉は悪かった。」

しかし動詞語幹に単数・複数と関係節が融合した接尾辞で表す方が生産的である。xij は前の語と融合すると {ŋ} になる<sup>10</sup>。関係節中の主語が単数の場合には {o-ŋ}、複数の場合には {to-ŋ} となる。

- (95) aruŋ aʔ-aam-**oŋ** a gara.  
肉 1-食べる-単. 関係詞 コピュラ 悪い  
「私の食べた肉は悪い。」

- (96) aruŋ jeʔ-aam-**oŋ** a gara.  
肉 2-食べる-単. 関係詞 コピュラ 悪い  
「おまえの食べた肉は悪い。」

- (97) aruŋ aam-**oŋ** a gara.  
肉 食べる-単. 関係詞 コピュラ 悪い  
「彼の食べた肉は悪い。」

- (98) aruŋ aʔ-aami-**toŋ** a gara.  
肉 1-食べる-複. 関係詞 コピュラ 悪い  
「私たちの食べた肉は悪い。」

- (99) aruŋ jeʔ-aami-**toŋ** a gara.  
肉 2-食べる-複. 関係詞 コピュラ 悪い  
「おまえたちの食べた肉は悪い。」

- (100) aruŋ aami-**toŋ** a gara.  
肉 食べる-複. 関係詞 コピュラ 悪い  
「彼らの食べた肉は悪い。」

- (101) Seko kal-uu-ba mobail aʔ-uwaruŋ-**oŋ**.  
セコ 待つ-近未来-未完了 モバイル 1-買う-単. 関係詞  
「セコは私が買うだろうモバイルを待っている。」

- (102) Seko kal-uu-ba mobail aʔ-uwaruŋ-**toŋ**.  
セコ 待つ-近未来-未完了 モバイル 1-買う-複. 関係詞  
「セコは私たちが買うだろうモバイルを待っている。」

<sup>10</sup>例えば imifu 「バッファロー」に対して、imifuŋ(imifu xij) 「このバッファロー」となる。

## 6.7 等位接続

等位接続は、前文の最後の単語に {-e} (母音で終わる場合は {-je}) を付けることで作られる。

(103) amat tʃ'al-e, maari naani tʃ'atʃ'-aʔa.

飲む 酒-接続 顔 私の 赤くなる-完了

「私は酒を飲んで、顔が赤くなった。」

(104) aan giagon aʔ-aam-i t'ibs-e, kijanj naani daɖuŋ-i-jaʔa.

私 昨日 1-食べる-単 ティブス-接続 腹 私の 壊す-単-完了

「私は昨日ティブスを食べて、お腹を下した。」

(105) aan giagon aʔ-aam-i t'ibis gara-je, kijanj naani daɖuŋ-i-jaʔa.

私 昨日 1-食べる-単 ティブス 悪い-接続 腹 私の 壊す-単-完了

「私は昨日悪いティブスを食べて、お腹を下した。」

(106) aan uŋ-oŋŋ, iɖuŋ kuune, asaw-aʔa.

私 眠る-私の 精霊 現れる-接続 話す-完了

「私が眠ると、精霊が現れ、話した。」

もし従属節を不定形を用いて表すと、2つのイベントが同時に起こることになるので、以下の(107)はトイレの水で顔を洗うことになるのに対して、等位接続を使った(108)ではトイレを出た後に手を洗うことになる違いが生じる。

(107) kuuj-en ke toʔo gebtu, Sindi uwan-i-jaʔa maari neeni.

行く-不定に 家 トイレ スィンデ 洗う-単-完了 顔 彼の

「トイレに行き、スィンデは彼の顔を洗った (トイレの水で)。」

(108) Sindi kuuj-i-ja'a ke toʔo gebtu-je, uwan-i-jaʔa maari neeni.

スィンデ 行く-単-完了に 家 トイレ-接続 洗う-単-完了 顔 彼の

「スィンデはトイレに行って、彼の顔を洗った。」

ところで前述の関係節化接辞 {-oŋ} / {-toŋ} を用いても、だいたい同じ意味になる。(109)と(110)および(111)を参照されたい。このようにこの形態素を関係節化接辞と呼ぶには、幅の広い用法を持っており、今後さらに検証する必要があるであろう。

(109) aan ham ka toʔo Fiqre arifi-je, a-datʃ-i-jaʔa.

私 までの 家 フィクレ 走る-接続 1-疲れる-単-完了

「フィクレの家まで走って、疲れた。」

- (110) **aan arif-*oŋ*** ham ka toʔo Fiqre, **adaf*-i-jaʔa***.  
私 走る-単. 関係詞 までの家 フィクレ 疲れる-単-完了  
「我はフィクレの家まで走ることで、疲れた。」
- (111) **uwou arifi-*toŋ*** ham ka toʔo Fiqre, **adaf*-a-jajaʔ***.  
私たち 走る-複. 関係詞 までの家 フィクレ 疲れる-複-完了  
「我々はフィクレの家まで走ることで、疲れた。」

## 6.8 副詞節

ここでは、条件、時（同時、前、後ろ）の副詞節について取り扱う。

### 条件 (*jaŋ*)

- (112) **a-kuuj borok ka Kowegu *jaŋ***, a-*oŋ* k'oxnen ke Sindi.  
1-行く 村 のコウエグ 条件 1-欲する 釣り と スインデ  
「私はコウエグ村に行くなら、スインデと魚釣りをしたい。」
- (113) **daamu okena got biiw-en *jaŋ***, a-kuuj-ken borok ka Kowegu.  
明日 たぶん 雨 降る-不定 条件 1-行く-否定 村 のコウエグ  
「明日たぶん雨が降るなら、私はコウエグ村に行かない。」

### 時に (*kijeni je*)

- (114) **uwou aʔ-aanaa tog ka Kowegu komn-en *kijeni je***, kanke ka Henok kuun-aʔa *oŋ*.  
私たち 存在-複 語 のコウエグ 考える-不定時 接続車 のヘノキ 来る-完了 ここ  
「私たちがコウエグ語を考えているところに、ヘノキの車がここに来た。」
- (115) **aan aʔ-aanen toʔo tuoŋ oifu k'oŋe kiem mat-en *kijeni je***, Fiqre kuun-aʔa.  
私 存在-単 家 で コーヒー 杯 1 飲む-不定時 接続 フィクレ 来る-完了  
「私が家で一杯のコーヒーを飲んでいるところに、フィクレが来た。」

### 前に (*kana~kene*)

- (116) **kana aʔ-aam-i-kene** miŋ, aʔ-*uwan(-i-ba)* buwa naani.  
前 1-食べる-単-否定 食事 1-洗う-単-未完了 手 私の  
「私は食事を食べる前に、私の手を洗う。」
- (117) **kana aʔ-aam-a-kene** miŋ, aʔ-*uwan-a(ba)* buwa guwaju.  
前 1-食べる-複-否定 食事 1-洗う-複 手 私たちの  
「私たちは食事を食べる前に、私たちの手を洗う。」

### 後で (*ma*)

- (118) Henok aam *ʧamuko* **ma**, kuuj-e, uwan-aʔa maari toʔo gebtu kijeni.  
ヘノキ 食べる チャムコ 後 行く-接 洗う-完了 顔 家 トイレ 中  
「ヘノキはチャムコを食べた後、トイレの中に入って、顔を洗った。」



## 6.9 ae 構文

ae + 属格 + 動詞不定形で、従属節を表す構文である。(124) と (125) を比較すると、ae によって導かれる従属節の動詞アスペクトが完了相と相関するように思われるが、更なる調査が必要であろう。

(119) uwou a-kal-uun-a-ba kanke ka Henok ae ka kuun-en  
私たち 1-待つ-進行-複-未完了 車 の ヘノキをの 来る-不定  
「私たちはヘノキの車が来るのを待っている。」

(120) uwou a-kal-uun-a-ba t'ibis ae ka kuun-en.  
私たち 1-待つ-進行-複-未完了 ティブスをの 来る-不定  
「私たちはティブスが来るのを待っている。」

(121) aan a-kal-uu-ba basu ka Jinka ae ka kuun-en.  
私たち a-待つ-進行-未完了 ティブスをの 来る-不定  
「私はジンカのバスが来るのを待っている。」

(122) aan a-ge-ja?a Sindi ae ka uŋ-en.  
私 1-見る-完了 スインデをの 眠る-不定  
「私はスインデが眠るのを見た。」

(123) aan a-ge-ja?a Sindi ae ka ʒaamif-en.  
私 1-見る-完了 スインデをの あくびする-不定  
「私はスインデがあくびするのを見た。」

(124) aan a-ge-ja?a Sindi ae ka t'ibis aam-en.  
私 1-見る-完了 スインデをの ティブス 食べる-不定  
「私はスインデがティブスを食べるのを見た。」

(125) aan a-ge-ja?a Sindi aanen t'ibis aam-en.  
私 1-見る-完了 スインデ 進行 ティブス 食べる-不定  
「私はスインデがティブスを食べているのを見た。」

### 【参照文献】

Bender, M.L., J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.) (1976) *Language in Ethiopia*. London: Oxford University Press.

Dimmendaal, G.J. and L. Marco (1998) *Surmic Languages and Cultures*. Köln: Rüdiger Köppe.

- Hieda, O. (1990) 'Koegu, a preliminary report', *Journal of Swahili and African Studies*, 1, 97-108.
- Hieda, O. (1991) 'Koegu Vocabulary, with a Reference to Kara', *African Study Monographs*, Suppl. 14, The Center for African Area Studies, Kyoto University, 1-70.
- Hieda, O. (1992) 'A Grammatical Sketch of the Koegu Language', *Journal of Swahili and African Studies*, 3, 131-155.
- Hieda, O. (1998) 'A Sketch of Koegu Grammar: Towards reconstructing Proto-Southeastern Surmic'. In Dimmendaal, Gerrit J. and L. Marco (eds.): 345-373.
- 乾秀行 (2011a) 「コウエグ語の試験調査報告」乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究および地理情報システムを用いたデータベース構築 (*Cushitic-Omotc Studies 2010*)』, 山口大学, 69-89.
- 乾秀行 (2011b) 「コウエグ語の音素目録ーガルギダ方言ー」『一般言語学論叢 14』, 筑波一般言語学研究会, 41-64.
- 乾秀行 (2013a) 「コウエグ語名詞 500」 *Studies in Ethiopian Languages*, 2, 9-28.
- 乾秀行 (2013b) 「コウエグ語形容詞」 *Studies in Ethiopian Languages*, 2, 29-38.
- Lewis, M. P. (2009) *Ethnologue: Languages of the World, Sixteenth edition*. Dallas, Tex.: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com/>